
双子の二人「フォース」

レイン氷花

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

双子の一人「フォース」

【NZコード】

N4248D

【作者名】

レイン氷花

【あらすじ】

双子の紅と蒼。そして、新たに鈴が加わり、新たな展開に！？

(前書き)

えへと、この編は、いわば、準備編です。

「皆に転校生を紹介する。」

先生が、皆の注目を浴びる。

「今日からこのクラスで学ぶ…。」

大体誰か見当ついてるよ。

同じ学校つて聞いてから、大体予想は付いていた。

「佐藤鈴さんだ。」

クラスの3分2が歓迎の拍手をした。

拍手が終わると、先生は転校生の事情を話したりと、色々なことを説明し始めた。一通り説明し終えて先生は満足したのか、転校生に席を教えてそそくさと職員会議に行ってしまった。

そうなると、当然転校生の周りには沢山の野次馬生徒が群がる、当然の事だ。

はあ、これからが大変だ。

誰にも聞こえない溜息をつく。

「やあ、朝から元気ないね。
気分でも悪いの？」

「いや、そうじゃない。

ただテンションが低いだけだ。」

「そつか。」

今、話してる奴は坂井涼、俺の数少ない友で、なかなか良い奴だ。
ホモ疑惑があるけど。

蒼の奴も鈴の所に行つてるな。

まあ、俺は今のところは大丈夫か。

「紅、顔が赤いよ？」

「うん？そつか？」

「あつ、熱もあるよ？」

「何かこんな展開前にもあつたろ。」

「？紅、何言つてるの？本当に大丈夫？」

「いや、大丈、夫だ。」

「呂律がまわつてないのに？」

「早退する。」

「その方が良いよ。」

かくして、俺は早退し、寝た。

【蒼視点に変換】

あの娘が佐藤鈴ちゃんか…。

あの娘が紅にとつて、どうこうつものなのかな。

気になる！だがそれよりも、可愛いなあ…。

「抱きたい。」

思わず呟いてしまひ。

「なーに危ない事呟いてるのかなあ？」

この声は…、無視だ無視！存在を消せ！…蒼…

「消えないよ、蒼。」

「こつー読心術が使えるのかー？」

「使えないよ…、蒼。」

「じゃあ何で僕の考えが読めるー？」

「いや、蒼の考てる事は大体把握出来るよ。」

「坂井…、アンタ恐いから関わりたくないのに何で…。」

「いや、一応君にでも会えりつつと思つてね。」

「何を?」

「紅が早退した。」

「え!?」

「顔が赤く、呂律もまわらなかつたからね。」

「紅が早退した!?また具合が悪くなつたんだ。」

「ところで、君の癖も相変わらずだね。」

「大きなお世話だよ。」

「こいつはいつもこいつだ。
他人の心を見透かしているよつた態度で、傍観者気取りのこいつ
が、僕は嫌いだ。」

「で?用はもう無いかな?無いならどうか行つて。」

「ククク、残念まだあるよ。」

「何が?」

「鈴は、去年の春からストーカーに悩まされてるんだって。」

「!?」

「いつ何でそんな事が分かるの！？」

「何故分かるかって？噂で聞いただけだよ。」

「それで？私にどうしようと？」

「何も？ただ、ライバルの情報は知つておきたいんだが？？」

涼はそう問うと、席に戻つていった。

「こいつは、何がしたいんだ？私にそんな事を教えて何のつもりだらうか。」

そんな私の無駄な思考は結局、数分したら消えていた。

何故つて？

鈴を抱けたからだよ

鈴ちゃんは以外と素直で明るい子だった。

鈴ちゃんをストーカーしたくなる気持ちが良く分かつた。
でも、鈴ちゃんにそんな事する奴は、私が許さないと思った。
そしていつの間にか、私は鈴ちゃんを好きになつてて、最初の目的なんかくだらないと思つててる自分がいた。

さて、ここでストーカーについて考えてみる。

紅にストーカーの事を話して、協力して貰おう。

決定！

あれれ？何か忘れているような、まあいいか。

明日が楽しみだな。

そうして、私の気まぐれな一日は過ぎた。

次回は、紅がストーカーと対決し、病院送りに！？

(後書き)

この小説を「」愛読の皆様には、本当に向て書いて言つて言つのか分かりません。なので、皆様にもつと楽しんでもらいたい為、注意点があれば、教えて下さりいね。

氷花。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4248d/>

双子の二人「フォース」

2010年11月2日02時35分発行